

緯度	経度	施設名称	俳号	投句者コメント	俳句(改行有)	選者コメント
33.841095	132.770052		地図郎	お城下ウォーク開催おめでとうございます	城下町 歩道で拾う 柿の種	柿が秋の季語。松山を歩道に柿の種の落ちている城下町として詠んだ、その視点が面白い。城下町も柿も、日本古来の文化を感じさせる。
33.852121	132.786291		なめこ		秋の暮 静かに佇む 白鷺や	道後温泉の周りにある白鷺の像を詠んだ句かも知れない。でも、薄暗くなってゆく秋の暮の中、実際の白鷺が静に佇む姿を、読者にありありと思い起こさせる句でもある。白鷺の白さが、鮮明。
33.84688003	132.7853238		柳雲		秋の暮れ 涙混じりの 声にする	秋の夕暮れに、涙混じりの声を聞いてしまったら、一体誰のどんな状況なのか、気になってしょうがない。道後公園で、自分が別れ話を切り出したくせに泣いている女性を、勝手に思い浮かべてしまった。
33.85243338	132.7849778		峠		朝まだき 道後のお湯は あふるるぞ	夜の明けきらない早朝の道後温泉。湯船にはまっさらなお湯がひたひたと溢れている、そんな光景を思い浮かべた。こんな一番風呂に入れたら、なんて贅沢だろう。
33.84245719	132.768209	萬翠荘	紫音		落ちてなほ 紅染まる 楓かな	本当にこんなことがあるのだろうか。木から落ちた楓の葉が、まだ息をしているように紅色に染まっているという。萬翠荘の楓なら、こんな神秘的なことが起こっても不思議ではない気がする。
33.850062	132.771792	愛媛大学ミュージアム	ひさの		大学に 弥生の歴史 冬立ちぬ	大学内に展示された弥生時代の出土品。太古の歴史を感じさせるそれらと、立冬の日の空気が、人を凜とさせるのだろう。
33.84308124	132.7479389		蕪榴子	夜明けの始発電車	寒闇や 鉄路の軋みに 時を知る	街が鼓動をし始めるのは、夜明けの始発電車からかも知れない。「時を知る」というフレーズから、作者がまだ目覚めきっていない雰囲気も伝わる。
33.8535087	132.7734162	愛媛縣護国神社	アンペー	冬帽子は受験生であったり、夫婦であったりと、絵馬に願いを掛けに来た全ての人を表しています。	絵馬飾り 鳥居をくぐる 冬帽子	誰もが見たことのある光景ではあるが、思い浮かべる人物の姿は、読者それぞれ違っているのだろう。いろいろな冬帽子の姿を想像出来るところが、この句の魅力。
33.85042415	132.7669497		さゆり		いしのおと ざらざらと鳴る 冬がくる	砂利を敷いた地面を歩いたときに鳴るざらざらという音。その音が、これから訪れる冬を予感させるほど、冷たく響いたのだろ。「いしのおと」とひらがな表記なのも、心に穴が空いているよう。
33.8436482	132.754704	庚申庵史跡庭園	弥生	自然の営みは美しい( ^ - ^ )	舞う落ち葉 終の棲みかで 飲むコーヒー	終の棲家と決めたのは、この街を愛してしまったから。舞う落ち葉の中、しみじみと飲むコーヒーが、ほろ苦く温かい。